

阿蘇の味を守るに、
定年はありません。

はじまりは、里芋の「種あかどいもの茎の漬物」「あかど漬」。赤い茎なので「畑の馬刺し」とも呼ばれ、そのこりこりした食感は阿蘇の家庭の食卓に古くからおなじみのものです。これを商品化し、ひろく世に問おう。農協婦人部長だった村上ミツ子さんの心意気に多くの婦人部員が集まった。「それから夢中。病気なんかしているヒマはない」。現在は「あかど漬」だけでなく、阿蘇高菜漬や阿蘇産大豆納豆など、阿蘇の食材をていねいに加工して仕上げる。頑固に守りぬいているのは、無添加・無着色の信念。これを譲つたら、おふくろ工房ではなくなるけん。

阿蘇おふくろ工房 村上ミツ子
(写真左)



農家の台所の、
味と人情を持ち寄ります。

季節の野菜などで仕上げる煮しめは、室町時代の生活教科書『庭訓往来』にもその名が見えるというから、わが国の食卓にのびてきた歴史は長い。永富美津子さんがリーダーを務める「あすか」は、その煮しめや太巻き寿司をはじめ、まんじゅうやおはぎや粽に至るまで「農家の家庭の台所」をそのまま持ちこみ、みんなで丹念につくりあげる「味わい製造所」です。目新しいことはせず、伝統的なものを手間かけて作る。「そういえば、むかしはよくこういう味を母さんが作ってくれたもんや」というなつかしさを思い出し、だれもが深くうなずきます。

J A 阿蘇町女性部加工班「あすか」
永富美津子



母娘の「作る楽しさ」が
テーブルにあふれる。

夫を支え、家業の製材業にいそしんでいた田中英美子さんは還暦を迎えた年、決断する。自作の野菜によるオリジナル漬物の販売。二十年前からの夢でした。スタートして五年目、娘の美恵子さんに相談した。食べ物屋さん、やってみる気ない？娘はすぐ賛同した。どんな食事処か。阿蘇の大地を召し上がっていただく。それに尽きる。さらにもうひとつ。幼くして母を亡くしている英美子さんは「家庭の味」への想いが人一倍強い。その想いをテーブルに満たそう。味わう常連客は「菜の花」をこう評します。思いやりが深く、じつにふうで、とにかく楽しい味。

お食事処菜の花 なの花工房
田中英美子・美恵子



火の国 阿蘇の
恵みのブランド

然
zen
A s o C i t y

阿蘇の自然を舞台に繰り広げている人びとの営みこそ大きな訴求力を持っている、という考えで2013年秋にスタートした「火の国阿蘇の恵みのブランド-然」。現在、この活動の広報として、お一人お一人のポスターを制作しており、このページでも順次ご紹介いたします。ご期待ください。

あるがまま、という貴さ。
人と自然が共作する阿蘇。

然についてのお問い合わせは、
阿蘇市「草・観・然」活性化事業推進会議事務局
(阿蘇市観光まちづくり課)
TEL. 0967-22-3174 / FAX. 0967-22-4566

aso-zen.com



CONTENTS もくじ

- 04 **特集** 特殊詐欺の現状と予防
- 08 農地の貸し借りをお手伝い～農地中間管理事業～
- 10 子ども・子育て支援新制度が始まります
- 12 各種予防接種のお知らせ
- 14 フラッシュニュース
- 16 まちの話題
- 24 市役所からのお知らせ
▶ 市政報告会 ▶ 狂犬病予防注射
- 26 暮らしの情報
- 30 人権作文 ▶ 佐藤 雛さん
- 31 大事にしたい、懐かしい阿蘇の生活 No.31
- 32 自慢の学校 ▶ 山田小学校
- 33 食改だより
- 34 図書館へ行こう！
▶ 「あそぶっくま」のシールができました！
- 35 やまなみハイウェイ開通 50 周年記念イベント
▶ 大分県九重町
- 36 くらしカレンダー・お慶び・ご寄付
- 28 地産地消クッキング ▶ ゴーヤのどろりあげ
さわやかフレッシュマン ▶ 市原 菜実佳さん



国指定重要無形民俗文化財「阿蘇の農耕祭事」の一つ、田実祭が9月25日、阿蘇神社で行われ、流鎗馬（やぶさめ）が奉納されました。

田実祭は、その年の豊作に感謝する行事で、田作祭、御田祭に続く三大祭の一つです。

流鎗馬奉納では、地元高校馬術部OBでつくる射手会9人が、全国的にも珍しい140㍍の横参道を次々に疾走。的を射るたびに、沿道の観客から大きな歓声が沸きました。

夢を追いかける青少年の声を届けますー

夢を追いかけて

私の夢はカウンセラーになることです。私は勉強も運動も少し苦手だけど、誇れることは笑顔です。お父さんに「笑顔がいいね」と言ってもらってから、自分の『笑顔』に自信が持てるようになりました。だから、私の笑顔で何か人のためになる夢を持とうと思いました。

そんなとき私は、あるCMに人の悩みを聞くカウンセラーの方が出演されているのを見ました。それを見て、私もいじめなどで悩んだり、困ったりしている人がいつでも相談できる場所を作り、私の笑顔でその人たちの心をいやせるようなカウンセラーになりたいと思いました。

きのした れ な
木下 玲奈 さん

坂梨小学校・6年